

問1 情報技術の進展に伴い、労働環境や個人の意識にも変化が生じている。日米の意識調査によると、日本の就業者の約7割が人工知能の普及によって自身の仕事が代替されると懸念しているものの、具体的な対応や準備を「特に行わない」とする割合は半数を超え、アメリカの2倍以上となっている。このような、新しい技術への適応や活用能力の差が、将来的に個人の雇用や所得における不平等を固定化・拡大させる要因となることが懸念されている。この、情報通信技術の利用機会や活用能力の違いによって生じる社会的・経済的な格差を何というか。（2020年 全国公立入試 類似）

1. フィルター・バブル      2. デジタル・デバイド      3. フェイク・ニュース      4. テクノ・ストレス

問2 自我が欲求不満や葛藤による不安に直面した際、無意識のうちにその不安を和らげ、自己の崩壊を防ごうとする心の適応の働きを総称して何というか。（2005年 全国公立入試 類似）

1. 回避行動      2. 防衛機制      3. 攻撃行動      4. 逃避行動

問3 一人の女性が一生の間に産むと見込まれる子どもの平均数の推計値であり、現代日本における人口減少や家族の変容、少子化の進行度合いを測る指標として用いられる統計上の用語は何か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. 社会保障給付費      2. 生産年齢人口      3. 合計特殊出生率      4. 老年人口比率

問4 現代社会の特質として、従来の製造業中心の社会から、サービス業や情報・知識の生産が中心となり、理論的知識が社会の主導的な役割を果たすようになった社会の形態を、アメリカの社会学者ベルは何と呼んだか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 脱工業社会      2. 超高齢社会      3. 多文化社会      4. 情報化社会

問5 青年期に差し掛かると、体内で性ホルモンの分泌が活発になり、それによって生殖器以外の部分に男女の身体的特徴が顕著に現れるようになる。この身体的発達の現象を何と呼ぶか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 第二性徴      2. 第一性徴      3. 身体的発達      4. 精神的発達

問6 意識調査によると、生活水準が「悪くなった」と感じている人ほど「努力は報われない」と考える割合が高い傾向にあり、1980年代末以降、日本社会における経済的不平等の実態が人々の意識に影を落としていることがうかがえる。現代の日本において、等価可処分所得の中央値の半分に満たない世帯で暮らす人々の割合を示す指標であり、先進国の中でも日本が比較的高い水準にあることから、格差社会の進展を示すものとして問題視されている社会的指標を何というか。（2023年 全国公立入試 類似）

1. 絶対的貧困率      2. 所得再分配率      3. 高齢者貧困率      4. 相対的貧困率

問7 青年期は、大人としての責任や義務を一時的に猶予された期間（モラトリアム）とされる。この期間において、自己のアイデンティティを模索するために、様々な社会的立場や活動を試験的に試みることを、エリクソンは何と呼んだか。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 役割実験      2. 自己確立      3. 自己受容      4. 自己開示

問8 社会調査において、対象となる集団の全体的な傾向を統計的に把握するために、あらかじめ設計された共通の質問項目を用いて、多くの回答者から情報を収集する調査手法を何というか。（2018年 全国公立入試 類似）

1. アンケート調査      2. インターネット調査      3. オンライン調査      4. モニター調査

問9 グローバル化が進む現代社会において、異なる文化背景を持つ人々との共生が課題となっている。しかし、国籍や人種などの属性を理由に「外国人には自国の文化を理解することは本質的に不可能である」と決めつけ、他者を排除しようとする思考様式が見られる。このように、自己の属する集団の文化や価値観を絶対的な基準とし、それに基づいて他者の文化を否定的に評価・排除する態度を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ステレオタイプ      2. ユーロセントリズム      3. ゼノフォビア      4. エスノセントリズム

問10 青年期における精神的・社会的な自己の目覚めを「第二の誕生」と表現し、一度目は生存するために、二度目は生活するために生まれると説いた、教育論『エミール』の著書で知られるフランスの思想家は誰か。（2020年 全国公立入試 類似）

1. カント      2. ロック      3. ミル      4. ルソー

## 答え合わせ・解説 No.5

|     |                   |  |
|-----|-------------------|--|
| 問1  | 答え 2<br>デジタル・デバイド | 日本の就業者は人工知能（AI）の普及に対して「仕事を奪われる」という懸念を抱きつつも、具体的な準備や対応を行わない割合がアメリカに比べて非常に高い（2倍以上）。このような技術変化への対応の遅れや能力の差は、将来的に労働市場における格差を生み出す要因となる。情報通信技術（ICT）を使いこなせる者とそうでない者の間に生じる、雇用や収入などの社会的・経済的な格差は「デジタル・デバイド（情報格差）」と呼ばれる。                            |
| 問2  | 答え 2<br>防衛機制      | 自我が脅かされるような欲求不満や葛藤に直面した際、無意識のうちに不安を和らげ、自己の統合を維持しようとする心の働きを防衛機制という。精神分析の創始者であるフロイトによって見出され、その娘アンナ・フロイトらによって体系化された。これには抑圧、合理化、投影、昇華など様々な種類が存在する。   |
| 問3  | 答え 3<br>合計特殊出生率   | 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を足し合わせたもので、人口動態を把握する上で重要な指標である。日本においては、1966年の丙午（ひのえうま）の年に一時的に急激に低下したものの翌年には回復したが、1970年代半ば以降は長期的な低下傾向が続いており、少子化が深刻な社会問題となっている。  |
| 問4  | 答え 1<br>脱工業社会     | アメリカの社会学者ダニエル・ベルが提唱した概念。工業化が高度に進展した結果、物質的な生産活動（工業）よりも、情報、知識、サービス、技術などの非物質的な価値の生産や消費が社会の中心的な産業となる社会のあり方を指す。   |
| 問5  | 答え 1<br>第二次性徴     | 青年期における身体的発達において、性ホルモンの分泌亢進に伴い、生殖器以外の部位に現れる男女の身体的特徴の変化を第二次性徴と呼ぶ。これに対し、生まれつき備わっている生殖器そのものの違いは第一次性徴と呼ばれる。  |
| 問6  | 答え 4<br>相対的貧困率    | 生活水準の悪化実感と「努力が報われない」という意識の結びつきは、社会的な格差の拡大を反映している。その格差や貧困の実態を示す指標の一つが相対的貧困率である。これは、その国の所得水準（中央値）の半分に満たない所得しか得ていない人の割合を示すもので、日本はOECD加盟国の中でもこの数値が比較的高く、特に単身の若年層やひとり親世帯において深刻な問題となっている。経済的困窮が固定化することで、個人の努力だけでは現状を打破できないという意識が強まる背景となっている。 |
| 問7  | 答え 1<br>役割実験      | エリクソンは、青年期をアイデンティティ（自己同一性）の確立の時期と位置づけ、社会的な責任や義務が猶予される心理社会的モラトリアム（猶予期間）の重要性を指摘した。この期間中、青年は様々な社会的役割を試行錯誤しながら体験する「役割実験」を通じて、自己の生き方や価値観を模索し、自己同一性を形成していくとされる。  |
| 問8  | 答え 1<br>アンケート調査   | 全体的な傾向を統計的に把握するためには、あらかじめ用意された共通の質問項目を用いて回答を求める手法が有効である。これにより、客観的かつ数値的なデータを効率よく集めることができる。  |
| 問9  | 答え 4<br>エスノセントリズム | 自己の属する集団や民族の文化を基準として、他の文化を低く評価したり、理解不可能として排除したりする態度はエスノセントリズム（自民族中心主義）と呼ばれる。これは、個人の学習経験や知識の不足といった個別的な要因ではなく、国籍や人種といった「属性」そのものを理由に他者を境界線の外に置く偏見や本質主義的思考に基づいている。多文化共生社会を実現するためには、こうした態度を克服し、それぞれの文化をその文脈において理解しようとする文化相対主義的な視点が必要となる。    |
| 問10 | 答え 4<br>ルソー       | 青年期を「第二の誕生」と位置づけ、性をもった存在として精神的・社会的に生まれ変わる時期であると指摘したのは、フランスの啓蒙思想家ルソーである。彼は自然主義的な教育論を展開した『エミール』においてこの概念を提唱し、子どもの発達段階に応じた教育の重要性を説いた。  |